



毛越寺のあやめ園を散歩する平泉保育所園児たち

右／長島保育所の近くにある山平農園でリンゴ狩りを楽しむ園児たち。小さな頃から地域の特産物に触れ合い、親しんでいる



小野さんから平泉や神社の歴史などについて学ぶ

「人の人がいっぱいいて緊張した」  
謡の披露が終わった園児たち

さん。園児たちは大きく口を開けて園舎いっぱい声を響かせ練習に励み、その謡の技術は日々上達していきました。

平泉の文化を肌で感じる

11月3日には、ひらいずみ芸術文化祭のオープニングと秋の藤原まつり中尊寺能奉納の舞台で、これまでの練習の成果を披露する園児たちの姿がありました。青いはかまをはき扇子を脇に差し、すり足で静かに歩いて入場した園児たち。3列に整列して正座すると、扇子を手に背筋をぴんと伸ばし、真剣な表情で声を出していました。



「夏越しの大祓」で茅の輪くぐりを体験する園児たち

謡の披露が終わった園児たちは「人がいっぱいいて緊張した」

町を歩き、町に触れる

町内の長島地区ではリンゴの生産が盛んであり、町の特産物でもあります。そしてこの長島地区にある長島保育所では、毎年リンゴの収穫の時期になると、近所の山平農園に歩いて出掛け、リンゴ狩りを楽しみます。

「楽しかった」「もっと謡いたかった」などと話し、どの子も満足気な表情を浮かべていました。園児たちは装束を身に付けていたり、所作や謡を体験したりすることで、平泉に息づく伝統芸能を肌で感じ取っています。

平泉地区にある町立幼稚園と平泉保育所では、6月下旬になると毛越寺に散歩に行き、紫や

白など色鮮やかに咲き誇るあやめの風景を眺めてきます。また800年前から続く歴史ある熊野三社に行き神社にまつわる話を聞いたり、穢れを払い無病息災を祈願する「夏越しの大祓」を体験したりもしています。

町内を歩き、自然に平泉の文化などに触れていく園児たち。園児たちが普段出掛ける何気ない場所も、郷土の風や歴史を感じたり、地域の人たちの交流があったりします。歴史や文化が豊かな平泉だからこそ、積極的に地域に出掛け関わりを持つことで、より一層子どもたちが地域に親しむようになり、平泉に対する興味や関心を高めるきっかけにつながっています。



国重要文化財である中尊寺白山神社能舞台で謡「鞍馬天狗」と「老松」を披露する町立幼稚園、平泉保育所の園児たち

第2章 来年もこの場所で

世界遺産のある町に生まれ、世界遺産に囲まれて成長していく子どもたち。子どもたちはまだ気付いていないのかもしれませんが、自分たちが日常で触れ、感じているこの文化こそ、世界に誇る平泉の文化なのです。



①園児が覚える「鞍馬天狗」と「老松」の謡曲／②伝統文化の継承だけでなく、謡を通じて集中力や礼儀作法も身に付けている／③本番に向けて大きな声を出し謡の稽古をする園児たち



謡の稽古に励む園児たち

毎年11月に開かれる芸術文化祭と秋の藤原まつりで謡を披露するため、二葉きり園（町立幼稚園・平泉保育所）の年長組の園児は6月から毎週1回、平泉喜桜会事務局長の鈴木四郎さんを講師に迎えて稽古に励んでいます。園児への謡の指導は10年前から始まり、謡を通じて日本の文化を学ぶだけでなく、集中力や礼儀作法を身に付けることも目的としています。「歴史ある平泉の文化を小さな子どもたちが学ぶ。そんな環境が昔からありました」と話すのは講師の鈴木

Voice 謡について



講師 鈴木四郎さん

町民の理解があり 続けてこられた

謡は日本が誇る大切な文化です。歴史のある平泉だからこそ、園児による謡は町民にも理解され、継続できています。



平泉保育所きりん組 石川華ちゃん

覚えることが多いけど楽しい

発音など覚えることが多くて難しかったけど、楽しかったです。人がいっぱいいて緊張したけど頑張りました。



二葉きり園PTA会長 本間真悠さん

平泉ならではの貴重な体験

園児が日本の伝統芸能を実践するという事は、他の地域では得られない平泉ならではの貴重な体験だと思います。



Interview

熊野三社 小野宏之さん

1985年生まれ。平泉町で生まれ育ち、現在は800年前から続く熊野三社で欄宜を務める。

子どもたちに平泉をもっと好きになってほしい

平泉では、山の中に一歩入れば、古い神社が存在したり、そこにある灯籠が実は800年前に作られたものだったりすることも珍しくありません。私自身も小さい頃から学校などで、中尊寺や毛越寺など平泉の文化遺産に触れてきましたが、大人にな

り神職になってから、改めて平泉の価値に気付かされました。子どもたちは平泉の自然や歴史に触れ、感じるたびに郷土を大切に思う「愛郷心」が育まれています。これからも生まれ育った平泉をもっと好きになってくれればと思います。